



安心のキーワードは支援の継承

施設長 岡山 久代

成十八年から始まつた「山口県

になりました。

昭和五十四年養護教育が義務化され、どんな障害の重い子にも教育の門が開かれました。丁度その年に我が子は小学校の一年生として入学しました。

当時の私は自分の運の悪さに毎日嘆き悲しんでいましたが、

入学生四人（男子二名、女子二名）という少ない人数にも関わらずとも立派な入学式を厳粛に執り行つてくださいました。私は、この子が生まれて始めて自分の子も他の子と同じ様に可愛らしい一人の男の子として認めてもらえたという嬉しさとピカピカの一年生として、祝つてもらえた事への感謝の気持ちで涙が止まらなかつたことを今までに障害の子をもつ親にとても鮮明に覚えています。

あれから三十年近くたつた今、養護教育は更に充実さを増し平

特別支援教育ビジョン実行計画

の構想のもと一人一人の実態に即した「個別の教育支援・指導計画」が立てられる様になりました。

また、将来を見通しての支援の方法の共有化の必要性から卒業先である企業や関係機関との連携を強めながら一貫性のある支援の継承のシステム作りが現

在進められているところです。その様な中、私達福祉の分野においても「個別の支援計画」は平成十五年から義務付けられ、それに沿つた日々の作業支援・生活支援が行われています。最近では保護者の理解のもと小・中・高等学校へと継承され続けてきた教育の支援、指導計画が卒業時に渡されることも多くなり、この大切な情報を基に就労支援事業所として更に充実した支援計画を立てる事が出来る様

当園の作業メインはパンの製造と販売であり、清潔保持やお客様とのコミュニケーションづくり等の指導・支援ではその引き継がれた情報がとても重要なものとなっています。

生活支援については、ほとんどの人（三十九名）がグループホーム＆ケアホームであるため、それぞれの個性を大切にした仲間作りを基本に日々の生活が楽しく、しかも豊かな暮らしが出来る様支援に当たっています。

しかし、私はあえてその課題から目をそむけてきました。なぜなら私にとつて次なる夢の実現は高い高いハードルだからです。最近どうしたら、このハードルを越えることが出来るか、そればかりを考えています。なんとか、その高いハードルを乗り越えて今度こそ胸を張つて「丈夫ヨ」と言つてみたいと思うこの頃です。

しかし、この支援の継承はここで終わりなのでしょうか。先日利用者さんの一人（五十代の女性）が不安そうな顔で「私達ここで、ズーっと暮らす事ができるの」と聞いてきました。私は「大丈夫よ」と答えたものの、とても戸惑いを覚えました。なぜなら人は障がいの有無に拘らず、老いによる手助けが必要な事を介護の母を抱えている私は良く知つていています。そう、これで終わりではない事を…。

更なる支援の継承は私達障害者福祉施設に残されている大きな課題であると思つています。

しかし、私はあえてその課題から目をそむけてきました。なぜなら私にとつて次なる夢の実現は高い高いハードルだからです。最近どうしたら、このハードルを越えることが出来るか、そればかりを考えています。なんとか、その高いハードルを乗り越えて今度こそ胸を張つて「丈夫ヨ」と言つてみたいと思うこの頃です。

この様に個々の実態に即した支援の共有化と一貫性のある支援の継承が確実に行われることでその人のライフステージに応じた、しかも本人の願いやニーズにもとづいた支援が出来るこ

